

訪インド中堅・中小企業ミッション 概要報告

2026年1月15日

①実施概要

- 日商・日印経済委員会（安永委員長）は、経済産業省および日本貿易振興機構（ジェトロ）と合同で訪インド中堅・中小企業ミッションを派遣した。
- 昨年8月のモディ首相訪日時、日印首脳会談において「今後10年に向けた日印共同ビジョン」を採択。同ビジョンでは、「次世代の経済パートナーシップ」として、日本の中小企業によるインド訪問の促進、裾野産業の拡大、日印中小企業フォーラムの立ち上げなどを通じた、中小企業間の連携が奨励されている。
- 首脳会談に合せて開催された経済フォーラムで、安永委員長は、中小企業ミッションの派遣をモディ首相に約束し、今回の訪印となった。
- ミッションには航空宇宙分野において、高品質、高精度の素材、部品、加工・処理・組み立て、検査装置などの高い技術力を誇る中堅・中小企業12社が参加。インド市場や産業構造への理解を深めるためにデリー、ベンガルールの2都市を訪問し、ゴヤル商工大臣など政府要人への表敬訪問、企業視察やネットワーキングなどを行った。

1. 日 程：2025年12月14日～19日

2. 派遣先：インド（デリー・ベンガルール）

**3. 参加者：安永日印経済委員長、松尾経済産業審議官（デリー行程のみ）
鈴木常設委員長、奥村ジェトロ理事、航空宇宙分野における中堅・
中小企業12社など 総勢37名**

**4. 備 考：本事業は経産省の「グローバルサウスとの連携強化に資する共創型
技術人材交流事業費補助金」を利用して実施**

②主要行事

| 日程 | 活動内容 | 都市 |
|---------------|--|--------|
| 12月14日 (日) | 在インド日本国大使公邸夕食会 | デリー |
| 12月15日 (月) | ゴヤル商工大臣表敬 マルチ・スズキ マネサール工場視察 日印産官学関係者とのネットワーキング | デリー |
| 12月16日 (火) | NITI Aayog スマン・ベリー副委員長表敬 デンソー ハリアナマネサール視察 | デリー |
| 12月17日 (水) | Sansera Engineering工場、PES大学、ISRO視察 日印産官学関係者とのネットワーキング | ベンガルール |
| 12月18日 (木) | JAL, ベンガルール空港関係者によるブリーフィング Motherson工場、MUFG Global Service社視察 | ベンガルール |

③ゴヤル商工大臣表敬



○安永委員長は冒頭「日本の中小企業は、インドのパートナーとともに新たなビジネスシナジーを生み出す先進的な技術を有する。戦略的パートナーシップとして相互的な利益を生み出していきたい」と発言。

○ゴヤル大臣は「8月に採択された“今後10年に向けた日印共同ビジョン”で設定した対印民間投資10兆円の目標は、大企業だけでは達成できない」と、今回のミッション団来訪に謝意を述べた。また、中小企業は製造業における新技術分野で非常に重要な役割を果たすと強調。さらに、2025年11月に駐日インド大使館により開設された“日印中小企業フォーラム”に触れ「日商、経産省、ジェトロなどと協力して取り組んでおり、日本の中小企業と非常に強力な未来志向の関係の始まりになったのではないかと確信を示した。

○その後の意見交換では、参加企業から様々な意見が挙がり、議論が交わされた。

④ NITI Aayog スマン・ベリー副委員長表敬



- 安永委員長は「対印民間投資10兆円目標、航空宇宙分野を含む協力など、日印関係は今後さらなる強化が必要。日本の中小企業は、インドの産業に対して補完的な役割を果たし、最終的には相互利益を享受できるのではないかと述べた。
- ベリー副委員長は冒頭、閣外大臣を務めるバーマニ博士や科学技術や航空宇宙分野を担当するビヴェク氏を紹介。その上で、「両国経済関係の発展には中小企業セクターの連携強化が不可欠。日本の中小企業セクターがどのように機能しているか理解を深めたい」と述べた。
- 松尾経産審は「本ミッションは、主に航空宇宙分野で野心的な企業が参加しており、これら独自の技術を有する12社がグローバルに事業を拡大するには、インドのような成長市場で良いパートナーと組むことが必要。日本政府としても日印企業の連携を支援したい」と強調した。
- その後の意見交換では、政府側と参加企業との間で活発な議論が交わされた。

⑤デリー行程

企業視察の様子



マルチ・スズキ社（左）、デンソーハリアナ社（右）をそれぞれ視察

産官学関係者 ネットワーキングの様子

参加者に向け挨拶するインド商工会議所連盟
（FICCI）のカンワール印日経済委員長（左）、
レラン共同委員長（右）



⑥ベンガルール行程（航空宇宙関連の政府機関など訪問）



インド宇宙研究機関 (ISRO)では、インドの宇宙セクター改革に関する取り組みや今後の展望が説明された。

ナラヤナン・インド宇宙研究機関総裁兼宇宙庁長官（写真右）と挨拶を交わす鈴木常設委員長

ベンガルール空港のArun Chandra氏、Rao Munukutla氏より航空サービス開発や周辺地区の開発と今後の展開について説明があったほか、日本航空の竹井インド支店長からはインド航空業界の課題について講演があった。



⑦ベンガルール行程（企業視察）



エアバスやボーイングに納品するTier2企業であるSansera Engineering（写真左）、エアバスにワイヤーハーネスなどを納品するTier1企業であるMotherson Group（写真右）の工場をそれぞれ視察。

三菱UFJ銀行のIT・システム・エンジニアリング・R&D・事務分野などを受注するGCC（Global Capability Center）では、鈴木社長が登壇。設立からわずか5年で1,900人を雇用するまで拡大したことを説明し、参加企業との間でインドの人材雇用に関する活発な議論が交わされた。

